

3章 中世Ⅲ

問題

【1】

解答

問1 ① チ ② ロ ③ ヌ ④ ホ ⑤ リ 問2 イ 問3 3
問4 ⑥ リ ⑦ カ ⑧ ヲ ⑨ ハ ⑩ イ 問5 2 問6 ホ
問7 3

解説

中世ヨーロッパにおけるローマ教皇権の推移に関する問題。問2以外はすべて基本問題なので、得点しておきたい。間違えたところはしっかりと復習しておこう。

問1 ① 「十字軍運動の展開」とともに「聖地の防衛と巡礼者保護を目的」として組織された団体であるから、宗教騎士団が正解となる。もっとも、この語群の中には団体の名称としては他にニのスパルタクス団、への義和団ぐらいしかなく、双方とも近・現代史に関する用語であるから、消去法でもすぐに正答が選べるはずだ。

②・③ イベリア半島における最後のイスラーム王朝であるナスル朝とその都グラナダ、そしてその宮殿アルハンブラは、国土回復運動の一環としてよく出題される。これはその典型的な例である。

④・⑤ 西スラヴ人として選択肢にはポーランド（人）とチェック（人）の2つが挙げられている。ポーランド人は10世紀にポーランド王国を、チェック人は9世紀にモラヴィア（ドイツ語でメーレン）王国を、10世紀にはベーメン王国を形成した民族である。ここで問われているのは、両者のうちドイツ騎士団によるキリスト教への改宗が進んだ地域なので、正解はポーランドとなる。ちなみにポーランドでは、国家的な動きとしてはミェシュコ1世の時代の966年にカトリックを受容していたが、ここで問われているのは民衆レベルの動きである。なお、1190年に創設されたドイツ騎士団は、ルターによる宗教改革が進行する最中の16世紀初めに新教に改宗しているが、それ以前は西欧の宗教騎士団の1つとしてカトリックを信仰・布教していた。

問2 下線部aの「ドイツでは東方の教化を名目とする植民運動が展開し」とはドイツ騎士団による東方植民をさしている。よって、ドイツ騎士団の動きとは関係のないものを選ぶことになる。消去法を用いてみると、ロ・ハ・ホはみなドイツ騎士団の東方植民に関係するのでまず消去できる。ニのリトアニア人も13世紀にドイツ騎士団の侵入に対抗して国家を統一したことから消去できる。へのタンネンベルクも、1410年のタンネンベルクの戦いがリトアニア・ポーランド連合軍がドイツ騎士団を撃破した戦いであるから消去できる。よってイのロートリンゲンが正解となる。ちなみにロートリンゲンとはドイツ語でロレーヌを意味する。

問3 「托鉢修道会」とは修道院以外での布教活動、都市での布教活動に主眼を置く組織である。修道院内に定住し、戒律に基づく修道生活を行う修道会とは根本的に異なる。シトー修道会

は1098年に聖ロベールがブルゴーニュ地方のシトーに建てた修道院に始まる宗派であり、「13世紀初頭以降の托鉢修道会」にはあてはまらない。

問4 ⑥ 教皇権の絶頂期を現出した教皇インノケンティウス3世については、第4回十字軍の提唱という点についても注目しておこう。

⑦ 信仰と理性の調和をはかり、中世スコラ哲学を体系化したトマス＝アクィナスは頻出事項である。その著書『神学大全』も必ず覚えておくこと。また、間違える者はいないと思うが、選択肢ルのトマス＝モアはルネサンス期に『ユートピア』でイギリスの第1次囲い込みを批判した人物である。

⑧ この事件は、ユダヤ人のバビロン捕囚（前586～前538）になぞらえて、“教皇のバビロン捕囚”と呼ばれる。南仏アヴィニョンの地名は頻出である。

⑨・⑩ イギリスのウィクリフ（1320頃～84）、ベーメン（ボヘミア）のフス（1370頃～1415）、コンスタンツ公会議（1414～18）はワンセットで覚えておく必要があるが、ここで注意したいのが、コンスタンツ公会議が開催されていた期間にはすでにウィクリフは死去していたという事実である。だからこの公会議でウィクリフとフスの2者が異端を宣告された結果、フスは火刑に処されたが、ウィクリフは墓を暴かれたという違いが発生するのである。これは難関私立大の選択肢問題や正誤判定問題で狙われやすい。

問5 叙任権闘争の背景・展開・終結を理解していれば、どれもたやすく判定がつく選択肢である。ローマ教皇と神聖ローマ皇帝との叙任権闘争が一応妥協に落ちついたのはヴォルムス協約（1122）においてである。アウクスブルク（アウグスブルク）の宗教和議（1555年）は宗教改革期に神聖ローマ皇帝とプロテスタントが妥協した会議である。

問6 フィリップ4世は国内の統一を進め、その後のフランス絶対主義への基盤を築いた王である。その過程における教皇との争い、ボニファティウス8世とのアナーニ事件（1303）、ボニファティウス8世の死後の“教皇のバビロン捕囚”（1309～77）については、しっかりと理解しておくこと。今回の問題のような教皇権の衰退というテーマの他に、フランス国内の絶対主義の進展に絡めても問われやすい部分である。ちなみにホのシャルル7世は、ジャンヌ＝ダルクの出現によりフランスの劣勢を挽回し、百年戦争を終結させたフランス王である。

問7 フスはベーメン（ボヘミア）の人であり、彼の教会革新運動は、やがてベーメン人の神聖ローマ帝国に対する民族運動へと結び付いていく。これがフス戦争である。よってオーストリアとベーメンでは地域が違うので1は誤りとなる。また、フス戦争はフシーテン（フス派のベーメン住人）が神聖ローマ皇帝およびローマ教皇に対しておこした反乱なので、2も誤りとなる。フスは14世紀末から15世紀初頭にかけて活躍した人物である。これに対してサヴォナローラは15世紀末のフィレンツェに神政政治を挙行したドミニコ会士であるから、4も時代的にかみあわない。

【2】

解答

① c ② b ③ d ④ d ⑤ b ⑥ b ⑦ d ⑧ a

解説

ヨーロッパの中世都市の動向を中心にまとめた問題。選択形式だが、選択肢はどれも素直で、基本問題といえる。全問正解が望ましい。

- ① 第1回十字軍はフランスの諸侯・騎士が中心となっているのでcが誤りとなる。また他の設問に紛らわしいものも見当たらない。
- ② aのボルドーはワインの生産で、bのシャンパーニュは12～13世紀に開催された定期市で、それぞれ有名である。cのトスカナ地方はイタリア中西部で、都市としてはフィレンツェやピサが名高い。dのナポリはギリシア植民地のネアポリスが起源の港市で、1282年に両シチリア王国から分かれたナポリ王国の首都となっている。よってbが正解。定期市＝シャンパーニュと覚えておこう。
- ③ ハンザ同盟の盟主リューベックは頻出事項。これは北ドイツを中心とした都市同盟であり、ノヴゴロド、ブリュージュ、ロンドン、ベルゲンの4カ所に設置された4大商館まで覚えておく必要がある。
- ④ ロンバルディア同盟の名称はイタリアのロンバルディア平原に由来するが、これは北イタリアの地にある。
- ⑤ a このような事実はない。
b 1年と「1日」がポイント。これが正解。
c 市民は義務として税金を支払わなければならなかった。
d ここでいう「宗教の違い」とは、例えばキリスト教徒とイスラーム教徒・ユダヤ教徒との結婚などをさすのだろうが、このような事実はない。
- ⑥ a 徒弟制度は同職ギルドの特徴の1つといえるが、「徒弟」の言葉で分かるように、決して平等ではない。
b ツunft闘争は頻出事項である。
c ツunft闘争が顕著だったのはドイツにおいてである。イギリスでは同職ギルドは平和裡に成立・普及している。
d このような事実はない。
- ⑦ a メディチ家がフィレンツェの市政を掌握したのは15世紀前半であって、13世紀前半は市民による共和政が実施されていた時期である。
b アウクスブルクのフッガー家のこと。
c メディチ家はユダヤ系ではない。
d これが正解。ローマ教皇レオ10世はイタリア＝ルネサンスを保護した人物としてよく出題される。
- ⑧ 先に述べた通り、南ドイツのアウクスブルクに本拠を置いたフッガー家は、南ドイツ銀山の利権を握って巨富を得た。

【3】

解答

- 1 (エ) 2 (ア) 3 (イ) 4 (ア) 5 (イ) 6 (ウ) 7 (ア)
8 (ウ) 9 (ア) 10 (エ)

解説

十字軍に関する基本的事項を問うた問題である。全問正解が望ましい。

- 1 ヨーロッパにおいてキリスト教が浸透するにつれて、人々の間で聖地巡礼が盛んとなった。中でもローマ・エルサレム・サンチャゴ＝デ＝コンポステラ（キリストの12使徒の1人である聖ヤコブの墓があるとされたイベリア半島西北端の都市）は巡礼地として人気が高かったが、エルサレムはイスラーム教の聖地でもあり、7世紀以来イスラーム勢力の支配下に置かれていた。
- 2・3 11世紀後半、セルジューク朝はアナトリアに進出し、ルーム＝セルジューク朝を樹立した。これに脅威を抱いたビザンツ皇帝アレクシオス1世が、ローマ教皇ウルバヌス2世に救援を求めた。救援の要請を受けた教皇は1095年のクレルモン公会議で十字軍の派遣を提唱した。
- 4・5 第1回十字軍は1096年に出発し、99年には聖地エルサレムを奪回してエルサレム王国を建設した。しかし、十字軍遠征に加わった大多数の人々が帰国したため、王国は生産者人口にも軍事力にも不足することとなった。
- 6・7 アイユーブ朝のサラディンが1187年にエルサレムを奪回したことに対抗して、神聖ローマ皇帝フリードリヒ1世、フランス王フィリップ2世、イングランド王リチャード3世らによる第3回十字軍が起こされた。
- 8 1187年にエルサレムがイスラーム勢力に奪回された後、エルサレム王国はアッコンを拠点としていたが、1291年に陥落した。
- 9 イベリア半島では、8世紀以降キリスト教勢力による国土回復運動（レコンキスタ）が展開されていた。11世紀頃からはレオン・カスティリヤ・アラゴンなどのキリスト教国家が中心となって半島の奪回を進め、1492年にイスラーム勢力最後の拠点であるグラナダを陥落させて運動は完成した。
- 10 11～13世紀の西ヨーロッパでは、3世紀半ばにイラン地方で創始されたマニ教の影響を受けたキリスト教の異端であるカタリ派が広がった。アルビジョワ派はこのカタリ派の一派で、南フランスのアルビ地方を中心に地方貴族に信仰されたが、13世紀初頭のフランス国王によるアルビジョワ十字軍によって根絶された。



会員番号	
------	--

氏名	
----	--